九月鹿ノ台教室誌上句会　優秀句

お題「時代」（連記）　川崎ちさと選

変りゆく人も時代も地球まで　春代
断絶も時代のせいと受け入れる　ミノル
苦難の日今からみればよき時代　充
黒幕が時代を開くいやな国　アキラ
時代劇独り占めする浩太朗　幸男
同期会時代遅れを口ずさむ　広子
あれ程に拒んだスマホ操作する　登美
鏡見て懐かしくなる母の顔　宏樹
生きてきたいつの時代も意義がある　えいじ
飢えた民いま飽食しフードロス　千楽
少子化に日本の国は老いていく　よう子
ユーミンと陽水だけで生きられた　哲子
なで肩を武器にしたのはもう古い　乃り子
ＡＩの時代に暦手放さず　義雄
ひとくくりに出来ぬ昭和という時代　英二
秀　時代からずれてだ円の皆既食　正清
軸　男の特権美容家子育て　ちさと

お題「包む」　水間　充選

はしゃぐ子をやっと包んだバスタオル　義雄
包むなら現金だけと伝えてね　広子
とんがった言葉が似合うオブラート　正清
真心と今なら分かる包む愛　春代
黎明に包まれ仁王立ちになる　アキラ
ひだのないギョウザを包む小さな手　春代
レジ袋代わり風呂敷返り咲く　幸男
のし袋中身に合わぬあでやかさ　登美
京言葉毒をきれいに包みます　英二
糖衣錠に包んだ苦言効いてくる　よう子
紙包み受け取る癖が命取り　ミノル
秀　本心は包んだまゝで期限切れ　乃り子
軸　リバイバル風呂敷私のマイバッグ　充

お題「夜明け」　杉本ミノル選

夜明けかな昼寝し過ぎた日暮れ時　充
世界のニュースポストへ届く夜明け前　義雄
離婚して己の夜明けやっと知る　幸男
逢瀬には別れが辛い夜が明ける　幸男
眠れない夜明けを待って散歩する　えいじ
午前様そっと寝床にすべり込み　登美
一夜漬け夜明けに覚悟迫られる　アキラ
夜明け前マスク外して散歩する　英二
難民の子にお日さんが当たる日よ　千楽
夜明けのコーヒーペアーカップで独り飲む　英二
夜明けが待てない草刈りはじめよう　えいじ
秀　マスクのおかげゴミ出しは素っぴんで　千楽
軸　新聞が夜明けの街を走り抜け　ミノル

自由吟　坪田登美選

マクワウリ探しスーパーはしごする　英二
装いはしても心はノーメイク　アキラ
そばつゆでソーメン食べる無精者　英二
長すぎた梅雨さえ恋し熱帯夜　広子
目の前のゴール目指してひた走る　よう子
先人の想いを胸に生駒越え　充
ボケられぬ次から次と見えぬ敵　哲子
打ち水に心癒され昼寝する　えいじ
大仏様見てみたいです立ち姿　春代
自粛して貯まったはずが妻に行き　充
ほどほどのサイズに合わせ夢を追う　よう子
秀　まだともう気持ちと身体せめぎ合う　アキラ
軸　最年少最年長に王手指す　登美

自由吟　阿部俊八選

打ち水に心癒され昼寝する　えいじ
猛暑日の青空に舞う百日紅　広子
長すぎた梅雨さえ恋し熱帯夜　千楽
娘待ち続け甲斐なく父は逝く　哲子
終戦の日居住まい正す父がいた　春代
むなしさに足が向くのは父母の墓　充
先人の想いを胸に生駒越え　哲子
ボケられぬ次から次と見えぬ敵　よう子
ほどほどのサイズに合わせ夢を追う　アキラ
装いはしても心はノーメイク　正清
灰になるまでヒロインを演じきる　アキラ
秀　まだともう気持ちと身体せめぎ合う　俊八
軸　百歳の画布にもきっと明日の色

十月誌上句会　投句〆　十月十日　各二句
「読む」勝部乃り子選　「声」八木哲子選
「漂う」（連記）前田幸男選
自由吟（共選）森里えいじ選　奥村義雄選
＊メール又は封書　アキラ迄
＊書式・用紙は自由、お題・柳号記入を
◎封書の場合は楷書で明瞭にお願いします